



堀船中だより



「我は我なり」 自分らしく、個性を伸ばそう

校長 鈴木 格也

真夏日と猛暑日が続いた夏休みが終わり、1学期後半が始まりました。

学校では夏休みに3者面談、3組夏季水泳教室、1年岩井臨海学園、部活動を行いました。また、北区中学校PTA連合会による進路フェアや、地域で行われた堀船サマーフェスティバル、堀船地区納涼盆踊り大会もありました。地域行事には堀船中学校の生徒がボランティアとして、当日の運営のお手伝いや、大江戸ダンスとジャンボリミッキーの披露をしてくれたり、前日の会場設営や翌日の片づけに取り組んだりしました。

さて、長期休業の後は、登校を渋る気持ちになりやすい傾向があると言われています。本校でも、そのような傾向が各学年に見られます。本人も家庭も「今日」こそは、学校へ行こうと思いつつ1歩を踏み出せずにいることもあります。私たちは、身近にいて困っている人を応援したい気持ちでいます。学校には様々な支援体制がありますので、教室に登校することについて深く悩んでいるときには担任の先生に相談しましょう。

これから12月までの1学期後半から2学期前半は、年間で最も登校期間が長いです。行事では、2年防災教室、中学校連合体育大会、ほりふな祭、中学校連合音楽会、中学校連合学芸会、海外交流事業、2年・3組職場体験、3組スポーツ大会、3組校外学習等たくさん行われます。地域行事でも少年の主張発表大会や区民まつり、きたっこパーク、平塚神社落ち葉掃きボランティア等があります。一つ一つ真剣に向かい合って取り組み、実り多きものにして欲しいです。

私たちは、1年は365日、12か月、1週間は7日、1日は24時間という単位を生活に取り入れて現代社会を築きました。今年よりは来年を良い年にしよう。今月より来月、今週より来週、今日より明日というように大きな単位から小さな単位で新たな気持ちで臨んできました。今日の発展した社会は、そういう個人の生き方によって築かれたものです。小さい単位の毎日の積み重ねが自分自身の目に見えない変化や成長になっています。今年、2年生のEC那須で見た姿は、1年前の臨海学園の姿から比べ、体も心も大きく成長したと学年の先生は感じました。このように、逆に大きな単位で見たときにその変化や成長を見ることができます。こうして考えると、毎日の生活の積み重ねが自分の人生であり、大切なこととして理解できると思います。さらに、中学生の生き方として、武者小路実篤の「君は君、我は我なり、されど仲よき」という言葉があります。中学生に大切なことは、「我は我なり」です。自分らしく生きるということです。他人の言動に流されず、皆がそうするからそうするという主体性のない生き方ではなく、正しいことを実践する素直な自分らしさが個性を磨きます。そして、みんな仲よし。

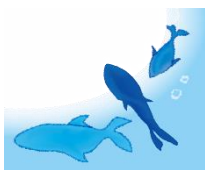
子供たちには実り多い秋となるよう、教職員一同、気を引き締めて導いて参ります。今後も、保護者・地域の皆様には一層のご支援ご協力の程、よろしくお願い致します。



ライフセーバーさんからのご挨拶



ニッパーボートの前でポーズ！



真夏の青い空と青い海、救命救助訓練をしました。



波しぶきを受けながら海水に慣れ、ビート板やニッパーボートで波乗りを満喫しました。



小型船舶からの飛び込みは最高！

ライフセーバーさんのユニフォームで借り物競争

岩井臨海学園当日は、前日のカムチャツカ半島で起きた地震による津波警報の影響と台風 9 号の影響がとても心配でしたが、お蔭様でその影響を受けることなく、全ての日程を無事にやり終えることができました。学園期間中、ライフセーバーの方々からは救命救助の大切さとその方法を教えていただくとともに、ニッパーボートを使っでの波乗りや、小型船舶からの飛び込みなど、普段体験することができない海の魅力と楽しさを満喫させていただきました。また、岩井学園の方々からは、生徒の健康・体力にお気遣いをいただき、おいしくいただいた毎食の食事、砂浜での水とお湯の用意などをしていただきました。楽しみにしていた岩井臨海学園は、現実の楽しさとして充実したものになり、生徒からの喜びの声に満ちていました。この行事を支えてくださった皆様方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。